

# 『一心千里』

永田 隆一

走って見れば、  
見えてくる



第2回

「私の人生でたった一つの後悔は、もっとシャパンを飲めばよかったということ」は、イギリスの経済学者ケインズの言葉です。

「景気の上かった時に、身の丈にあった設備投資に抑えて、利益を計上して、キャッシュを残しておけばよかった」と、多くの企業経営陣が後悔しています。

## キャッシュ・リッチが ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲーム

条件だった」。こんなに高い金利を出しても資金を積み増す必要があったのでしたが、正直驚

た。リスク低減を狙ったシンジケートローンや、銀行から融資枠を契約するコミットメントラインの設定時に、財務制限条項の抵触のリスクが発生します。さらに、貸し出し条件も、期末の純資産が前年比七五%以上や、二期連続で最終赤字を出さない等、厳しいしぼり

人件費を含めた経費の削減や、事業所の統廃合、さらに余剰設備や棚卸資産を大きく削減する施策を移行に移し始めています。しかし、この画一的で性急な戦略には大きなリスクが潜んでいます。

確かに、メーカーの部品の供給責任をJIS規格では製造中止から七年、米国UL規格では五年と定義されていますが、実際の産業界では、二〇年以上稼働している製造装置も、けっして少なくはありません。

また、従業員早期退職制度を適用したリスク

怖を指摘しています。設備部品に関しては、第三者機関が資金と場所と人材を確保して、適正規模で経営を行えば、充分に利益を出せるスキームを構築できると考えます。

きました。

《マイナス金利》

また、政府は、産業界にリスクマネーを誘導するために、また、銀行の貸しはがしを回避するために『マイナス金利』の検討を始めています。預金・現金・国債といった安全な資産や、銀行の当

IAにはどうしても、漠然とした不安を感じてしまいます。

《追加融資や借換え》

経済産業省の指摘の通り、二〇〇九年度は、企業の資金繰りが厳しい見通しであります。大幅な赤字決算で、多くの企業の純資産が減少しまし

があるのが現実です。企業は、返済が必要ない増資によるエクイティ・ファイナンスを希望しますが、株価下落と格付け低下から、ままならない状況が続いているようです。

品を在庫から廃棄し始めていますが、今元気の良いパワーデバイスやLEDの製造現場では、この数世代前の製造設備(六、八インチ)が主流です。

ラでも、数世代前の設備に詳しい熟練者から、退職を余儀なくされている傾向にあります。企業の主力製品を製造する設備の部品がなくなり、その設備を長く知るエンジニアもいないといったリスクが、不安を通り越して恐

《キャッシュバランス》  
ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲームは、一番重要な事・成功要因という意味です。  
今日の企業経営の「ザ・ネーム・オブ・ザ・ゲーム」は、大胆な構造改革を迅速に行い、キャッシュを積み増すことしよう。ただし、かつての顧客であって、現在フル稼働している古い製造設備は、修理や改造といったサポートが必須です。二〇〇一年のITバブル崩壊時、多くの企業でリストラの大量在庫を減らしました。

(毎月掲載)